

平成27年度 第1回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成28年1月22日（金） 9時～11時30分

場 所：伊豆市役所本庁別館2階 大会議室

出席者：17名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
伊豆市副市長	鈴木 伸二	
総合政策部長	和智永 康弘	副会長
健康福祉部長	山口 一範	委員
産業部長	鈴木 薫	委員
教育部長	森下 政紀	委員
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官	中山 國光（代理）	委員
静岡県交通基盤部都市局地域交通課長	林 聖久	委員
伊豆箱根バス株式会社 取締役営業部長	岩田 晃	委員
株式会社新東海バス 取締役社長	土屋 成人	委員
静岡県タクシー協会 賀茂・修善寺副支部長	寺山 冗二	委員
伊豆箱根鉄道労働組合 書記長	西尾 清明	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	古屋 徹之	委員
建設部長	齋藤 満	委員
株式会社伊豆中央自動車 代表取締役	佐藤 諭	委員
伊豆市区長会長	土屋 光成	委員
伊豆市PTA連絡協議会長	勝呂 宗真	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	川口 一男	委員
東海自動車株式会社 自動車営業部 部付課長	和泉澤 貴治	
伊豆箱根バス株式会社 営業部乗合課 主任	岩崎 勝一	
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主幹	森嶋 哲男	事務局
総合戦略課 主査	山田 和彦	事務局
総合戦略課 主任	室住 実希	事務局

資料：①次第、②席次表、③委員名簿、④資料1 伊豆市地域公共交通会議の役割について  
⑤資料2 報告事項、⑥資料3 協議事項、⑦資料4 路線図・運行ダイヤ

## 1. 開 会

### 2. 挨拶（市長）

本日は大変ご多忙の折に本会議にご参集賜りまして誠にありがとうございます。

伊豆市は現在、将来戦略を策定中であり複数の戦略を同時並行的に検討しています。国から指示されている地方創生戦略、第2次伊豆市総合計画、長期的指針となる伊豆市グラウンドデザインなどある中で、基軸は同じで伊豆市コンパクトタウン&ネットワークです。これは国で考えるコンパクトシティ&ネットワークとは異なり、高次都市機能をもつ三島・沼津等（高次医療・新幹線・国際会議場・ショッピングストア等）に依存しつつ、修善寺駅の周辺にある病院・市役所・図書館・学校など伊豆市の中にある都市機能を核としながら、周辺の地域にもしっかりと地域拠点をつくり、それぞれをネットワークでしっかり繋げていこうというものです。

問題はネットワークの中身ですが、国、県に大変なご尽力をいただき天城北道路をはじめ道路整備は着々と進んでいます。光ファイバーも来年度いっぱいようやく整備が終わり、また4月から開始する在宅診療も一つのネットワークと考えられます。その中で主役はやはり公共交通機関だと思っています。バス、タクシーを中心とする公共交通をいかにより使いやすくしていくか、事業者の皆さんにも汗をかいていただき、私どももどのようにして使いやすく、あるいは将来的に路線バスが難しいところをデマンドバスや相乗り型タクシー等のような形を組み合わせていくのかを視野に入れて検討していきたいと思っています。また、バス停も、交通を阻害しないためのバスの引き込み、屋根つきのバス停、観光客が心地よい待合いを長期的にどのように整備して行くかも検討事項です。

そのような中、昨年見たテレビで年配の方がバスの乗り方を知らないため一軒一軒説明に回っていたという話を地域でしたら、そういえば最近バスに乗っておらずわからないと言われました。本当にそんな状態で、みんな軽トラで動いています。改めて我々自身もどのように公共交通機関を使っていくのかも大事な視点であると思っています。

12月9日に東京オリンピック自転車競技2競技がサイクルスポーツセンターで開催が決まりました。国交省が進めている天城北道路ができ大量の観光客が半島を北から南に流れる2年目の夏に、その中をオリンピックの為に交通統制がされるとなると、今のままでは前代未聞の大渋滞が起きることが目に見えており、これを4年間でどのように解決していくのか公共交通とは別に大きな課題となっています。

また、数年前の大雪の時、土肥に用事があったが船原峠は通れないのでバスで来いと言われ、雪になれていない人間は車を運転していくよりバスの方が安全なため急遽バスで行ったことがあり、峠では5・60台の車が立ち往生していました。今ではFMいずで通行止め等PRができますが、交通に大きな障害がでた時の情報伝達がラジオしかないのが課題であり、情報の速達をどのような形でしていくのかこれから詰めて行かなくてはならないと考えています。

課題は多々ありますが、市民の足である公共交通を今まで以上に活性化していくことが将来の環境政策であり社会政策でもある大切な政策であると考えております。

### 3. 委嘱状交付（省略）

#### <会議の成立報告・議事録の公開>

事務局	本日の交通会議には委員 19 名のうち、代理の方の出席を含め、17 名の方にご出席いただいている。「伊豆市地域公共交通会議設置要綱」第 4 条第 5 項、会議の開催要件が満たされている。 また、「伊豆市地域公共交通会議設置要綱」第 5 条第 4 項“交通会議は原則として公開とする。”に基づき、会議は「公開」とし、議事録を後日公開させていただきます。
-----	--

### 4. 伊豆市地域公共交通会議の役割について

資料 1 に基づき、事務局より説明

### 5. 報告事項 ○ 伊豆市における公共交通の現状について ○ 伊豆市補助事業の内容

資料 2、4 に基づき、事務局より説明

### 6. 協議事項 ○ 来年度の路線バス系統について

協議事項について、資料 3、4 に基づき、事務局より説明

#### 《 質問 ・ 意見 等 》

会 長	補足として、自主運行バスで平均乗車密度 0.5 以下の 2 路線があるが沢口は小学生の通学等があるので維持して行きたい。また柿木循環は中・高校生が乗っておらず、時間があわないのかを含め理由が判明していない。H32.4 新中学校が修善寺地区にできるため再編を考えるが、下校のバスの時間設定が相当難しい。下校時刻は幅広いが 1・2 時間も待てない。片道利用だけでは定期券を買わないなど、下校の対応によって朝のバスの利用にも影響するかもしれない。全体を大胆に見直すが統廃合でバス使う学生が増えると予測される。それまでの 4 年間、なんとか現状維持をお願いしたい。
-----	--

委 員	まず 1 点、高齢者には乗り方、料金、アクセスなどバスに対して不安がある。そういったことが利用の低下につながっているのではないか。本日は住民代表の方がいらっしゃるので、事業者と連携し、一度みなさんでバスに乗ってもらって使い勝手の悪さ、何がわかりにくいのかを事業者伝えて貰いたい。今は宅配など便利だが外に出て行くことは健康な生活を送るために重要で、出歩く手段にバスを使って貰いたい。もう 1 点は、人口や利用者数は減って
-----	---

いき経費や補助額は増えていく。自治体は補助金をいかに確保するかを検討している。しかし伊豆地域には観光があり、乗合バスは地域の人も乗るし観光客も乗る。住民が少なくても観光客が乗れば路線維持に繋がっていく。自治体は公共交通担当部署と観光部署の連携を考えていただき、また事業者はいかに外から見てわかりやすいか、情報をどのように発信していくかを検討してもらいたい。

会 長 移動が長距離に及ぶ地区は乗車賃が高額で住民の生活としては高いが観光客には払ってもらえる。以前、観光向けに屋根のないバスを提案したが輸入車なので車体価格が何倍もし、また日本では法律で禁止している。特別な車両を何台も整備していただくことは難しいと思うが、景観の良さなどもなんとか改善につなげるよう、行政含め地域の皆様と取り組んでいきたい。

会 長 ワゴンタクシーなど外国のお客様の使い勝手がよくなっているのでは？

タクシー ジャンボタクシーなどはよく外国の方から頼まれる。

委 員 国交省に伺いますが、自主運行バスの定義はどういうものか？

国交省 一般的に自主運行バスといわれるものは自治体が主体で運行している。それに対し運送事業者が自主的に運送しているバスがある。昔はすべて事業者が行っていたが採算が合わなくなってきた、自治体の補助をいれて運行したり、自主運行バスという形に変わってきている。

委 員 市に伺いますが、自主運行は前者か後者か？

事務局 前者になります。

委 員 行政が行う場合には今までの運行と離れたものであると理解している。全国の自主運行バスをみると地域のカラーリングを行っているところなどがあるが伊豆市にはないのはどういうわけか？

会 長 公共交通路線は大胆な見直しをする過渡期であることを理解してもらいたい。市長になった7年前、他市町も含め路線バスが撤退していき、市でも社会実験なども行ったが、まだ今の路線バスを使うことに努力をしていないと思いき、現行の路線バスを活性化させるということを今やっている。これから、拠点間を結ぶバスを行政がやっていく。その他、多様な手段でのネットワー

クの在り方を検討していくが、その中で市民が乗換をすることは今以上に利用者が減ると想定される。地域の協議をしっかりと踏まえどうしたら公共交通手段を使っただけなのかをしっかりと検討しなければならない。いまその過渡期である。

委員 中伊豆温泉病院、日赤、中島病院、慶友病院などでは自分達が送迎をしている。時間、経路を考えることで病院が楽になるのでは。また、高齢者はバス停まで歩くのが大変であるため、路線をもう少し考えて欲しい。

会長 土肥の路線が日赤前を通らないなど運用を見直すことができる部分はあると思う。学生の通学時間帯の後に高齢者用に小型のバスを増やすなども考えられる。一方、病院再編成の話がでており1・2年の間に変わる可能性があるのもそれらも視野にいれて検討していきたい。また、バス停について、高齢者の利用が多い所をモデルバス停にして、そこまではセニアカーや軽トラで行き、そこからバスを利用してくれるかという実験を、平成28年度にはどこかでやっていきたいと思っている。

委員 平均乗車密度が低い路線や伊東線など赤字が1千万円を超える路線は継続する必要があるのか。高校生も利用している様子がなく、検討していった方がいいのでは。

会長 特別支援学校に通う学生がいたように記憶している。伊東線は一般的に生活路線よりも観光といった特別な路線と認識している。基本的に観光客に政策誘導をほとんどしておらず、首都圏から観光客は自家用車で来るが、電車やバスで来ていただくということは社会・エネルギー・環境政策として重要である。ビジネスとしてやる部分は修善寺八幡間になると思っている。やめることも含めて数年以内には結論をだしたいと思っている。すみやかに検討するよう指示をする。

委員 来年度の運行について先ほど9月に次年度分の申請をしたと聞いたが、この会議では事後承諾か。市民がどうしたら利用してくれるか本当の意見を聞いてから9月に間に合うように行わなければ、この会議を行う趣旨から外れてしまうのではないか。また年1回の開催では少ないと思う。

事務局 まず事業者から次年度の見込みを出していただき申出をし、この会議の承認をもって正式な申請となる。今年度は南西伊豆計画の協議関係もあり一緒に行うためこの日程となった。次年度は市の計画も検討していきたいため何回

か出席を依頼することになりますのでよろしくをお願いします。

### 資料のとおり『承認』

7. その他 ○協議が整った路線の認可申請等について【静岡運輸支局より】  
○伊豆市公共交通に係わる各施策について【伊豆市】  
○南伊豆・西伊豆地域公共交通網形成計画について【静岡県】

静岡運輸支局、事務局、静岡県地域交通課による説明

#### ≪ その他 質問・意見等 ≫

- 委員 修善寺駅の整備について以前は駅南広場に2台分大型が駐車スペースを確保すると聞いていたがスペースがない。
- 建設部 底地が伊豆箱根であり協議が必要。あのスペースしかないので今後協議し方向性を出したい。
- 委員 駅北広場は大型が入れない。もっと検討の余地があったのではないか。駅西広場にスペースを作ることが可能であれば検討してもらいたい。
- 会長 現在、土肥地区住民が西伊豆病院に行くのに市を跨ぐためいきいきパスが使えない。ぜひ広域で検討してもらいたい。また、バス停の整備に国、県の補助金がないと聞いている。部活帰りの高校生のために21時台バスの運行をお願いしたら、社会人（例えば土肥の人が修善寺駅で飲んでバスを利用する。そのバスを松崎の人も土肥で飲んで利用する）も利用するようになった。バス1本で活性化する。天城北道路ができ三島が通勤圏になったとき、1人1台の自家用車が往復するのは社会政策として決して良くはない。なんとかバス、伊豆箱根鉄道を利用してもらい、それは社会、労働、環境政策であるが、そのためにバス停に駐車場をつくってバス利用を促したい。また、湯ヶ島温泉の国道沿いのかどで観光客が雨の日にバス停で傘をさして立っている。水恋鳥広場のバス停は座るところさえない。これでは観光客に公共交通利用を案内できない。全体の総合政策としてぜひ国、県の支援をいただきたい。
- 委員 南西伊豆地域について広域の協議会という形は全国唯一。県からは前向きにこの地域に取り組むという意思を感じる。市は住民に情報をしっかり落とす仕組み、吸い上げる仕組みを検討してもらいたい。また市も様々な取組で意欲を持っていると感じる。同様に広域にも主体的に取り組んでいただきご意見をもらいたい。

会 長

タクシーや貸切バスに検討をお願いしたい。例えば中伊豆パールタウンなど、高齢化している地区を対象に、別荘地から中伊豆温泉病院、あるいは日赤病院とキミサワ・カドイケを回る仕組みなど、東海バスができないところをモデル地区として考えてもらいたい。必要であれば3ヶ月ぐらい社会実験を行いニーズなど図上の研究だけでは出てこない部分を調査したい。以前コミュニティワゴンの運行社会実験を行ったが、期間が1ヶ月で成果がでなかった。

閉 会